



2021.7月 ZIZIBABA 研修



ご挨拶
Greetings



社会福祉法人 絢会

玉樹にとってケアの原点となるのは生活介護研究所のZIZIBABA体験研修にあります。開所時から新人研修の1つとして16年続けています。出来る限りお年寄りに近い体験(座りきり・寝たきり)をすることで、自分自身の体験の中から考えることが出来ます。体験の中で身体的・精神的負担について感じた事を仲間と共有し、『こんなケアがしたい』『こんな事はしない』をディスカッションします。

私は16年前の玉樹開所時にこの研修を体験しました。体の拘縮を意図的に作って5~6時間の寝たきり体験は、それまで自分がやって来た介護を否定せざるを得ないものとなりました。寝返りが思うように出来ない辛さ・ほんの少し時間が経過しただけで床ずれが出来るであろうと恐怖に感じる痛み、布団が首元までしっかりと掛かっているので熱がこもって不快なほどの暑さ…『何をやって来たのか…』と、自分自身が玉樹に来るまでに実施して来た介護を、全て覆すことになったのを今でもはっきりと覚えています。お年寄りを想って自分なりに一生懸命に関わって来たからこそ、体験しながら『自分事として考えていなかったのかな…』と、悔しさと後悔の気持ちとが入り乱れ『絶対にこんな介護をする!』という覚悟を強く強く自分の心に刻み込む事が出来た体験となりました。

玉樹にとっても、私にとっても開所時のZIZIBABA体験研修がケアの一番根底にあります。お年寄りの身体的・精神的なことを本当の意味で理解することは難しいですが、自分事として考え想像することを大切にして関わっていきたいと思います。

生活介護課 課長 高橋 奈美子



つむぎプロジェクト ボランティア講座

ネイル講座



ネイルを楽しく学ぶことで福祉に触れるキッカケになればと講座を開催。7名の方が参加されました。Beauty tiAra 柴さんを講師に迎え、二人ペアになり、甘皮処理や長持ちするネイルの塗り方などを学んだり、爪に好きな柄を数秒で転写できるプリネイルを体験しました。今後は、施設イベント等でお年寄りにネイルをしてもらおうお手伝いなどを企画・案内していければと思っています。

ドライバー講座



玉樹の買い物支援「ウキウキショッピングバス」を、地域住民同士の支え合い活動にしていくことで、買い物に行けるようになる方が増えればと、ドライバー講座を開催しました。茨城県自動車学校境校ご協力のもと、適性検査やドライビング講習を行いました。講座開催には、昨年度、皆様にご協力いただきましたテーマ型募金で集めた資金を活用させていただきました。ありがとうございました。

文：染野 ユミ



知る Learn



ケアの広場

BCP（事業継続計画）とは？

昨今、大規模災害の発生、さらには感染症の流行がみられる中、私達、介護事業者はそれらの事が起こった際、適切な対応を行い、その後もご利用者に必要なサービスを継続的に提供しなければなりません。介護サービスは要介護者の方やご家族の生活を支える上で欠かせないものです。

その為に平時から準備・検討しておくべきことや、発生時の対応などをまとめたBCP（事業継続計画）の作成が重要となるため、今年度の介護報酬改定に際し作成義務が示されました。

そこで玉樹ではアドバイザーを招いてBCP作成に向けて動き出しました。有事の際、玉樹に関わる職員、お年寄り、ご家族全ての支えになれるようしっかりとマニュアル策定をし、訓練を実施していきます。



文：佐伯 光司



新人奮闘記 ~さくら荘~



今年の4月からさくら荘の仲間になってくれた渡会さん。

新社会人としても介護職としても初めてのことばかり。その中でも、タカさんというご利用者との関わりに苦戦しているようでした。

タカさんは、自分の中で認めた職員でないと、服薬介助、体を拭くこと、持ち物に名前を書くことなど任せてくれません。プライバシーに関わることや、タカさんが大切にしているこだわりを任せることに不安を感じるのは当然です。

最初は渡会さんが関わろうとしても

「おめえじゃ、ダメだ」と言われケアをさせてもらえず、先輩に代わってもらう日が続きました。代わってもらう先輩にも申し訳ない気持ちでいっぱいになり、落ち込んで、出勤するのが嫌だなどと思ったこともあったそうです。



渡会さんは、タカさんの言葉にショックを受けながらも「タカさんがどうしたいのか？どんなことを想っているのかを自分が理解できていないから、タカさんにも自分の想いや何がしたいのかが伝わらないのではないかと考え、まずはタカさんを理解できるように、お話を聞かせてもらうことを大事にして諦めず関わり続けました。

その結果、服薬介助を任せてもらえるようになり、少しずつお手伝いさせていただくことが増えていきました。3ヶ月経った今では体を拭かせていただくことも任せてもらえるようになり、その時はめちゃくちゃ嬉しかったそうです。

服薬介助



渡会さんは『難しいケアがうまく出来た時やお年寄りに受け入れてもらえた時は「嬉しい！」

「頑張ろう！」と思える瞬間です。まだまだ出来ない事が沢山ありますが、これからも相手の気持ちを考える事を忘れずに、頑張っていきたいです！』と話してくれました。こんな風に思える新人さんが育っているのは素敵だなと感じています。



★お年寄りの声は1番確かな評価★



渡会さんの名札を手にして
「これ（渡会さん）はいい！」

この兄ちゃんは気持ちが優しいんだよ。こっちから言わなくても気付いてやってくれるのが嬉しいんだ♪



★先輩の声★

逃げないでしっかり向き合おうとする姿が素敵！自分よりもまず、相手の気持ちに添うという姿勢を持っているところがすごいと思います。



安心して泊まること

ショートステイのご利用者は、住み慣れた自宅やいつも一緒に過ごしているご家族と、一時的に離れて生活するため、誰しも少なからず不安な気持ちを抱えています。

私の祖母も施設に入所しており、会いに行くと「今日は迎えに来たのか？」とよく聞きます。毎回泊まる理由を伝えることで、その場では理解してもらえますが、祖母は祖母なりに、離れて過ごす不安があり、家のことや家族の心配もしてくれているのだと思います。

私は祖母に会いにいくたび、「私たち家族がどう対応したら安心してくれるだろう」と考えてしまいます。一方で、玉樹では施設の職員という逆の立場でもあり「職員がどう対応すれば安心してくれるだろう」とも考えさせられます。

玉樹のご利用者も祖母と同じように家族の心配をして、時には家族の名前を呼んだり、涙ぐんだりされる方もいます。そんな時、私たちは少しでもご利用者の不安を軽減できるよう関わらせていただいています。

家族写真を持参していただく

いつでも家族の顔が見られることや、写真をきっかけに家族との懐かしい思い出を話すことで「1人じゃない」という安心に繋がります。



不安な気持ちを肯定・共感する。吐き出してもらう

不安な時は、二人きりで落ち着いて話せるよう場所を変えます。お話を肯定・共感することで本音が言いやすくなり、不安を一旦吐き出すことで気持ちの切り替えができます。また、しっかり耳を傾けることで、職員がご利用者を大切に想う気持ちも伝わり「あんた（職員）が一緒なら泊まってもいいよ」と仰って下さることもあります。

離れていてもご家族が〇〇さんのことを1番に考えてくれていると伝わるのが、最大の安心！

家族と離れて過ごす時間に、自分のことを気にかけてくれているか不安になるのは当たり前のこと。利用する際に伺ったご家族の想いや、ケアコラボ（ご家族との情報共有アプリ）でいただいたご家族のコメントをお伝えすることで安心に繋がっています。



ショートステイ利用中は、私たち職員がご利用者とご家族の懸け橋になり、ご利用者を大切に想うご家族の気持ちをしっかり伝えていくことで、安心して泊まっていただけるようにサポートしていきたいと思えます。

そして、私たち自身も、ご利用者にとって安心できる存在のひとりになれるよう、日頃から一人ひとりの気持ちにしっかりと耳を傾けていきたいと思えます。



環境を整える

トミさん（仮名）は、昨年末より急に身体が思うように動かなくなり、ベッド上の生活になってしまいました。食事や排泄動作に介助が必要になり、4月からデイサービスを利用されています。デイサービスでは身体機能の維持・回復のため、トミさんの状況を確認しながら、環境を整えることから取り組みました。

自分で食べられる環境



初日はリクライニング車椅子のため通常のテーブルでは高さが合わず、職員が器を渡して介助しましたが、高さを調節できるテーブルに変更。ご自身で器やスプーンを持ち替えることができ、特に動きづらかった右手を使うことでリハビリになります。

右手の拘縮予防のため、入浴中にはマッサージも行っています。



姿勢を保てる環境



自宅ではベッド上の生活で久しぶりに車イスに座ったため、左足に力が入ってしまいフットレストへ足がつかせませんでした。楽に姿勢を保持できるように、タオルをあて対応。左足の緊張も少しずつほぐれ、現在は両足がフットレストに着くようになりました。

立てる環境



足に力を入れる練習

トイレで便座に移る際、足に力を入れる意識をしてもらうだけで立つ練習にもなります。足に力が入るようになれば、自宅でもご家族の介護負担軽減に繋がります。

最初は寝たきりに近い状態で、表情も強張り、ご自身から話しかける事も少なかったトミさんですが、環境を整えていくことで、ベッドで休むのは食後の30分程になり、他ご利用者と話す機会も増えました。その結果、馴染みの関係もでき、笑顔で過ごされる事が多くなりました。

現在では、特に動きづらかった右手で鉛筆を持ち、脳トレにも取り組めるようになりました。



トミさんの変化を通して『環境を整える大切さ』を改めて学ばせていただきました。

過ごしやすい環境を作り、持っている力を使い、出来るだけご自身で行っていただくことで「まだまだ自分で出来るんだ！」という自信がもてる。そして、気持ちが前向きになり、表情が明るくなり、楽しみも感じていただけるようなお手伝いをさせていただきたいと思います。



勉強会 ～エミさんの不安をなくしたい～

デイサービスのご利用者は、病気やケガなどがキッカケとなり利用される方がほとんどです。その1つに失語症があります。失語症とは、脳の障がいにより「話す」「聴く」「読む」「書く」などの機能がうまく使えなくなる症状です。

じゅげむを利用されているエミさん（仮名）も、失語症による生活のしづらさや不安を抱えていました。最初は私たちもどうコミュニケーションをとればいいのか不安でした。少しでもエミさんに安心していただけるようにと、なるべく職員が隣りに付いて過ごしていましたが、いつもどこか不安そうな表情をしていました。



そこで、私たちは「エミさんとコミュニケーションが取りたい！」「エミさんの不安をなくしたい」という想いで、失語症についての勉強会を行いました。

失語症の方との効果的なコミュニケーション

「伝えるとき」

- ・短い言葉でシンプルに!
- ・伝わりにくい時は同じ意味の違う言葉に言い換える



視覚情報は効果的！

- ・身振り手振りなどジェスチャーを使う
- ・絵や写真、漢字を使う
- ・表情（笑顔で安心）



「聞くととき」

- ・ゆっくり待つ
- ・はい・いいえで答えられる質問をする



ご家族との情報共有も大切

- ・周囲の人が情報を共有することでコミュニケーションがとりやすくなる

勉強会で学んだことを実践していくと、エミさんにも変化が。

コミュニケーションは以前よりスムーズになってきており、私たちの声掛けにも「うん」と声に出して答えて下さるようになりました。

1番の変化は、笑顔がとても増えたことです。いつも不安そうな表情だったエミさんが、会話をしなくても、会釈やアイコンタクトをするとニコッと素敵な表情を見せていただけるようになりました。



ご利用者の病気やケガは、認知症、脳梗塞、骨折など様々ですが、同じ病気でも生活のしづらさや、抱える不安は人それぞれ違います。一人ひとりの状況に合わせた対応が、ご利用者・ご家族の安心に繋がります。

どんな病気やケガを抱えていても、安心してじゅげむを利用していただくことが出来るように、今後も勉強会を行いスキルアップしていきます。





医療連携 Part2 ～退院編～

退院支援では、ケアマネジャーが迅速かつ適切に対応できるかが、スムーズな在宅復帰のカギとも言われています。退院に向けて、医療機関チームから、在宅医療・介護関係者で構成された在宅支援チームへの移行支援が行われます。そこで、退院前合同カンファレンス（情報共有会議）が重要になってきます。

退院前合同カンファレンスは病院主導で行うものですが、その場にケアマネジャーが参加する意味は、ご利用者の医療上の生活課題を確認し、入院医療機関の関係職種とケアマネジャーが検討した生活課題が一致しているかを確認することにあります。参加者からの意見や助言を元に、ご利用者の状況に適したケアプランを目指します。

退院時の医療連携では、関係者の顔が見える関係、協働の場が大切であり、ケアマネジャーの役割は地域の調整役となり、ご利用者を介した医療機関と地域のチームケア関係者をつなぎ合わせていくことです。ご利用者が安心して自宅に戻れるよう一人一人の最高のチーム作りができるように支援していきたいと思えます。

退院前合同カンファレンス



<参加者>

医療機関チーム

医療ソーシャルワーカー・医師
看護師・理学療法士など

在宅支援チーム

ケアマネジャー・かかりつけ医
訪問看護師・訪問介護・訪問看護
通所介護・通所リハ・短期入所
福祉用具・住宅改修・行政等

参加者からの意見や助言

疾患・医療処置の有無・服薬状況・ADLの変化・退院後の生活における注意点・退院後のリスク把握（移動、転倒、入浴、皮膚、口腔、誤嚥、リハビリへの指示内容）等

ケアマネの役割



利用者の状況に適した
ケアプランを目指す！
医療機関チームと
在宅支援チームを
つなぐ



文：塚田 幸恵



報告 社会福祉法人 絢会 2020年度 収支決算書

科 目 (支出)	本年度予算	科 目 (収入)	本年度予算
人件費支出	275,228,106	介護保険事業収入	407,941,136
事業費支出	54,314,784	借入金利息補助金収入	900,000
事務費支出	55,187,826	経常経費寄付金収入	30,000
支払利息支出	2,295,296	受取利息配当金収入	784
その他の支出	2,094,235	その他の収入	4,257,796
設備資金借入金元金償還金支出	32,352,000	設備資金借入金収入	4,000,000
固定資産取得支出	2,419,230	施設整備等補助金収入	545,930
ファイナンスリース債務の返済支出	4,647,340	その他の活動による収入	29,158
その他の活動による支出	0		
当期資金収支差額	-14,834,013		
計	413,704,804	計	417,704,804

掲載された写真は、本人様並びに家族様の了承の上で掲載しております。

発行：社会福祉法人絢会 発行責任者：吉川 秀貴

撮影・編集：絢会の仲間たち&佐藤あすか

〒300-3572 茨城県結城郡八千代町菅谷 1021-1

TEL 0296-49-3886 FAX 0296-49-2987

Mail info@tamaki.or.jp

<絢会の事業所一覧>

- ・特別養護老人ホーム 玉樹
- ・ショートステイ 玉樹
- ・デイサービスセンター玉樹
- ・デイサービスセンターじゅげむ
- ・居宅介護支援事業所 玉樹

